

第33回 2007. 5. 26 (土) 晴れ 最高 23.6℃ 最低 16.4℃ 参加者：22人

・テーマ：前川のヒメボタル 午後8時から 場所：前川周辺

世界中に約2000種いるというホタルのほとんどは陸生で、水生のものは世界でも5種類しか知られていません。日本では46種類が確認されており、水生のホタルはゲンジボタル、ヘイケボタル、クメジマボタルとイリオモテボタルの4種類だけです。

前川の土手に棲んでいるホタルは、ゲンジボタルやヘイケボタルよりも一回り小さいヒメボタルです。

ヒメボタルは、約7ミリ(メス)～9ミリ(オス)の小型で、幼虫は陸貝を食べて育ちます。

オスは後ろ羽が発達しており飛ぶことができますが、メスは後ろ羽が退化し飛ぶできません。

ヒメボタルを観察するのは、5月～6月初旬の、風の無い湿度の高い日が適しています。

観察会は、集合場所の尾三消防署駐車場をスタートし、前川沿いに歩いてヒメボタルを探したところ、70匹以上見つけることができました。

去年は10匹程度しか見つける事ができなかったのですが、今年は少し増えて安心しました。

しかし、一昨年(平成17年)より以前は、毎年200匹前後は観察できたため、それに比べると減っています。いつまでも、ヒメボタルが見られるといいと思います。



第34回 2007. 6. 23 (土) 晴れ 最高 29.5℃ 最低 20.3℃ 参加者：5人

・テーマ：初夏の林と昆虫 場所：名大農場

林に向かう水田沿いの道を歩くと、ヒメジョオン、ニワゼキショウ、ニガナなどの花がいっぱい咲いていました。

コナラの木にナナフシモドキがいました。ナナフシモドキの名の由来は「多く節のある枝に似ている」だそうです。つまり枝モドキ。たしかに、その名前がぴったりの形です。



ハラビロトンボがいました。このトンボは、とくに雌の腹部の横幅が広いので、このような名前がついたそうです。メスは、鮮やかな濃い黄色と黒色とのまだら模様。成熟したオスは紺色のトンボです。



観察会の最後に、コヤギにさわらせてもらいました。この、コヤギは生まれてまだ1週間程度しかたっていないそうです。ママのお乳は美味しいかい？

植物 ヒメジョオン、ニワゼキショウ、カモジグサ、シロツメクサ、カタバミ、セイヨウタンポポ、ネズミモチ、アカメガシワ、ニガ

ナ、ツユクサ、コナラ、アケビ、ネズミムギ、ムラサキシキブ、コナラ

昆虫 クモ ベニシジミ、ツバメシジミ、モンシロチョウ、モンキチョウ、ショウリョウバッタ、マメコガネ、アオハナムグリ、アメンボ、グンバイムシの一種、キンヒバリ、コシアキトンボ、モノサシトンボ、ハラビロトンボ、ナナフシモドキ、コフキゾウムシ、マルカメムシ、ツチイナゴ、ヒメクロオトシブミの揺籃、ヤマシロオニグモ、オオシロカネグモ、サツマノミダマシ、ササグモ



鳥 その他 ホオジロ、ヒバリ、キジ、セッカ、ハシブトガラス、キジバト、コジュケイ、黒毛和牛、シバヤギ

第35回 2007. 7. 28 (土) 晴れ 最高 34.3℃ 最低 23.8℃ 参加者：10人

・テーマ：**境川・前川の生き物探し** 場所：境川周辺

連日、天気が良かったためか、境川の水量はかなり少なくなっていました。

川に入るにあたり安全確保について一通り説明し、どんな所に魚がいるか参加者の皆様に質問してから、答えを探しに川の中に入りました。

絶滅危惧種と言われているメダカの他、12種類の生き物達に出会えました。

生き物達は、水際の植物の所で多く捕まったようです。

境川と前川の水温を計ったところ、境川は27℃、前川は26℃でした。前川は、愛知池の冷たい伏流水が流れ込むため、少し温度が低くなっています。

観察できた生き物

モツゴ (クチボソ)、メダカ、ギンブナ、カワヨシノボリ、ブルーギル、ウシガエルのオタマジャクシ、アメリカザリガニ、マシジミ、ヒル、ガムシ、アメンボ、貝類



第36回 2007. 8. 25 (土) 晴れ 最高 35.7℃ 最低 25.1℃ 参加者：5人

・テーマ：**秋の鳴く虫音楽会をのぞいてみよう** 午後7時30分から 場所：境川周辺

今回は、夜の観察会です。耳をすませてみると、スズムシ、カンタン、マツムシ、ハタケノウマオイ、エンマコオロギなどの多くの虫の音を聞くことができました。

虫の音以外にも、ショウリョウバッタの雌雄、セミが羽化をしている姿、ヤナギの木の穴の中にあるコクワガタなどを観察することができました。

観察会の最後に、先日の雨で流された流れ橋を復旧しました。

植物 ヒヤクニチソウ、メドハギ、ヨモギ、ジャヤナギ

昆虫 スズムシ、カネタタキ、カンタン、マツムシ、ハタケノウマオイ、アオマツムシ、ツユムシ、エンマコオロギ、ササキリsp、ツツレサセコオロギ、セスジスズメ、ショウリョウバッタ、トノサマバッタ、ツチイナゴ、コクワガタ、アオドウガネ、ゴキブリsp、ツクツクボウシの幼虫

鳥 その他 ミギマキマイマイ、ヌマガエル、アマガエル



第37回 2007. 9. 22 (土) 晴れ 最高 33.1℃ 最低 23.0℃ 参加者：29人

・テーマ：**バッタの運動会を開こう** 場所：名大農場

今年のバッタの運動会も、多くの参加者に来て頂きました。

トノサマバッタ、クルマバッタ、クルマバッタモドキ、ショウリョウバッタなど、簡単なバッタの説明を行い、トノサマバッタが毎年一番飛



んでいることを説明し、バッタ採りスタート。

さあ！良く飛ぶバッタをさがすぞ〜と、親子でバッタ採り。捕まえたバッタで、バッタの飛ばしっこ。今年もトノサマバッタが一番でしたが、クルマバッタモドキも健闘しました。

バッタ飛ばしの記録

- 1位 トノサマバッタ : 30m70cm
- 2位 クルマバッタモドキ : 30m40cm
- 3位 クビキリギリス : 15m00cm
- 4位 クビキリギリス : 14m40cm
- 5位 クルマバッタモドキ : 11m30cm
- 6位 ショウリョウバッタ : 10m20cm



第38回 2007. 10. 27 (土) 雨 最高 17.8℃ 最低 16.4℃ 参加者：1人

・テーマ：**秋の色を探そう** 場所：愛知池

台風20号の影響で雨が降り続き、寒い一日でした。愛知池の周回道路にも人影はほとんどなく、昆虫はガの仲間とアカトンボの仲間が一種、目に付くばかりでした。でも、黄葉したニセアカシアが、人気のない道に広がっていたり、赤く色変わりしつつあるサクラやヤマハゼ、ヌルデが雨に打たれたりする姿はなかなかの見ものでした。愛知池の入り江には渡ってきたばかりの冬鳥が見られました。



植物 ヤマハギ、アキノキリンソウ、ノコンギク、イヌタデ、イシミカワ (実)、カラスウリ (実) スギ (蕾多数)

鳥 その他 メジロ、シジュウカラ、エナガ群、ハシボソガラス、スズメ、カワウ、カルガモ、マガモ、コガモ、オカヨシガモ?、オオバン、ジョロウグモ

第39回 2007. 11. 24 (土) 晴れ 最高 15.1℃ 最低 3.3℃ 参加者：15人

・テーマ：**ドングリ探し** 場所：愛知池

寒波の到来で、朝方は冷えましたが、風もほとんどなく穏やかな、小春日和でした。先月の第4土曜日にはまだ赤くなっていなかったイロハカエデが見事に紅葉していました。好奇心旺盛な子どもたちとドングリを拾いました。

見つけたドングリは、アラカシ、ウバメガシ、ウラジロガシ、シラカシ、コナラ、クヌギ、スダジイ、ツブラジイでした。





ムラサキシジミを見つけました。羽を広げて体を温めているようです。成虫で冬を越すシジミチョウの仲間です。冬を成虫で越し、春にたまごを産みます。幼虫はアラカシを食べて育ちます。

ウラジロガシの葉にはジョロウグモが産卵していました。おなかぺちぺちになったお母さんグモが卵囊の傍らでじっとしていました。しかし、来年の初夏、子グモがここから巣立つのを見ることはありません。

アラカシの葉の上で、

第40回 2007. 12. 22 (土) くもり 最高9.1℃ 最低 6.7℃ 参加者：8人

・テーマ：境川の冬鳥 場所：境川周辺

境川テニスコート横からスタートし、境川から前川の川沿いを歩き、前川沿いの田んぼの辺りを歩いて、ホオジロ、ジョウビタキなどの野山の鳥や、アオサギ、ダイサギなどの水辺の鳥を合わせて20種類ほど見ることができました。

今回の観察会では、冬鳥のツグミやコガモは見ることができませんでした。今年は、ツグミやコガモを見るのが少ないように思います。東郷町で多く見られる様になるのはもう少し先でしょうか。

観察会の終わりに水辺の宝石と言われる、カワセミを見ることができました。いつ見ても美しい鳥です。



鳥 モズ、ホオジロ、アオジ、ヒヨドリ、ウグイス、カシラダカ、ジョウビタキ、ハシボソガラス、ドバト、キジバト、ムクドリ、スズメ、アオサギ、ダイサギ、カワセミ、ケリ、セグロセキレイ、ハクセキレイ、キセキレイ、カルガモ

第41回 2008. 1. 26 (土) 晴れ 最高 8.3℃ 最低-1.7℃ 参加者：2人

・テーマ：林や草地の冬鳥 場所：裕福寺グラウンド周辺



今日は非常に寒く、今年一番の寒さでした。

寒さのせい参加者も少なく、少々さびしい観察会でした。

鳥 メジロ、ジョウビタキ、ヒヨドリ、ホオジロ、セグロセキレイ、モズ、ムクドリ、ハシボソ

ガラス, キジバト, スズメ, カワウ, アオサギ, コサギ, カワセミ, ハクセキレイ

第42回 2008. 2. 23 (土) 晴れ 最高11.9℃ 最低5.1℃ 参加者: 11人

・テーマ: **愛知池の冬鳥** 場所: 愛知池

雪の天気予報などがあり寒さを心配しましたが, 現地は思ったほど寒くない観察会でした。水資源機構駐車場をスタートし, 愛知池の池沿いを反時計回りに歩きました。

草原で見られたツグミから始まり, カイツブリやジョウビタキなど全部で18種類の鳥を見ることができました。

愛知池内の浮島に20匹近くのカワウがいました。浮島には白くなっている木が多くあります。カワウのフンのためでしょうか。

愛知池に2羽のミコアイサがいました。真っ白な羽に目の周りが黒い, ちょっとパンダに似たカモです。

最後にカケスを4匹も見ることができました。全体的に茶色の体に青と白の横縞模様の羽があるととても美しい鳥です。

鳥 ヒヨドリ, ツグミ, シジュウカラ, エナガ, メジロ, ムクドリ, ホオジロ, ジョウビタキ, カケス, キジバト, ハシボソガラス, スズメ, カワウ, オオバン, カイツブリ, ミコアイサ, カルガモ, ハクセキレイ



第43回 2008. 3. 22 晴れ 最高21.6℃ 最低6.8℃ 参加者: 8人

・テーマ: **春の七草探し** 場所: 境川周辺

「セリ, ナズナ, オギョウ(ハハコグサ), ハコベラ(ハコベ), ホトケノザ(コオニタビラコ), スズナ(カブ), スズシロ(ダイコン)」これぞ七草。

境川, 前川の周辺で七草探しの観察会を行いました。今回の観察会ではゴギョウ(ハハコグサ)は見つけられませんでした, それ以外の4種は見つけることができました。

春のこの季節には2種類のホトケノザの花を見ることができます。七草の一つであり黄色い花のキク科のホトケノザ(コオニタビラコ)(写真左)と, ピンク色の花を咲かせるシソ科のホトケノザ(写真右)。どちらもホトケノザですが, 並べてみると似てもつきません。みなさんはどちらのホトケノザの花がお好きですか?

植物 (草) セリ, ナズナ, ハコベ, ホトケノザ(コオニタビラコ), ホトケノザ, セイヨウタンポポ, ニホンタンポポ, ヒメオドリコソウ, ヒメスミレ, オオイヌノフグリ, オランダミミナグサ, タネツケバナ, スズメノヤリ, イタドリ, スイバ, ノビル, カタバミ, コセンダングサ, フキ, チチコグサ, カラスノエンドウ, ヨモギ, セイタカアワダチソウ, ツクシ(木) ジャヤナ

ギ, クワ, ハナノキ

クモ 昆虫 コモリグモの一種, キチョウ, モンキチョウ, ツチイナゴ

鳥 その他 ハクセキレイ, キセキレイ, ツグミ, イソシギ, モズ, コガモ, カルガモ, ウグイス, スズメ, ヒバリ, ヒヨドリ, ドバト, (魚) コイ, ナマズ, 稚魚の群



NO. 44 2008. 7. 26 (土) 晴れ 最高 37.7℃ 最低 27.2℃ 参加者: 13人

・テーマ: **境川で魚をつかまえよう** 場所: 境川周辺

連日暑い日が続きます。境川, 前川の水量はかなり少なくなっていました。

川に入る前に境川, 前川にはどんな魚がいるのか, 魚のいる場所や捕まえ方, 安全確保のための注意事項などを説明し川の中に入りました。

メダカやギンブナ, カマツカなど10種類の魚や水生生物を捕まえることができました。

メダカやトノサマガエルは, 最近数が減ってきているという話ですが, 境川や前川ではまだ見られる様です。この環境をこれからも守っていかなくてはなりません。

カマツカという面白い魚を捕まえることができました。カマツカはハゼの様な形をしていますが, コイの仲間の魚です。臆病な性質の魚で, 驚いたり外敵が現れたりすると, 底砂の中に潜り, 目だけを出して身を隠す習性があるそうです。

本日の一番の大物は20cm以上もあるミシシippアカミミガメです。ミドリガメの名前で知られるこのカメはアメリカ合衆国から着た外来種で, ペットとして輸入されたものが捨てられ繁殖しているそうです。近年は, その数が増えており, 在来のイシガメやクサガメの生活の場を奪うなどの悪影響があるため, 特定外来生物法では要注意外来生物に指定されています。ホームセンターなどでも売っているミドリガメですが, 一度飼い始めたら最後まで面倒を見る様にしなくてははいけません。

魚・水生生物 メダカ, ギンブナ, カマツカ, オイカワ (稚魚), アメリカザリガニ, ミシシippアカミミガメ, トノサマガエル, ヒメタニシ, ガムシ, アメンボ

その他の昆虫 ハグロトンボ, モンシロチョウ, キチョウ, アオスジアゲハ, ナミアゲハ, ツマグロヒョウモン



NO. 45 2008. 10. 4 (土) 晴れ 最高 26.9℃ 最低 16.4℃ 参加者：22人

・テーマ：バッタの運動会 場所：名大農場 北西の弱い風

秋晴れに恵まれ、絶好のバッタ飛ばしの日でした。

牛舎前の空き地で、バッタ取りに興じること 30 分。50 ～ 60 匹捕まえることができました。



先週、雨模様の中で下見をした時に比べると雲泥の差です。やはり昆虫は晴れの日が好きなのです。

指で胸をつかんで投げあげ、着地位置までの距離を測りました。巻き尺を持って走っていただいた方、ありがとうございました。結果は、ウスイロササキリ 50 m という記録が一位、次点はトノサマバッタ 27.4 m でした。

7.4 m でした。

◎帰りには農場の方に、シバヤギを見せてもらいました。ありがとうございました。



第 46 回 2008. 11. 22 (土) 晴れ 最高 13.5℃ 最低 3.6℃ 参加者：16人

・テーマ：愛知池でドングリ探し 場所：愛知池

水資源公団の駐車場からドングリの林までの間は、愛知池を渡る冷たい北風にさらされています。ここは高台の上に大きな池の南側なのでことさらです。



親子連れで何組か参加し、8種類ほどのドングリの仲間の見分けをみんなでしました。

大人も子供も食べられるシイの実を競うようにして集めていました。集めるというのは楽しいものです。

道すがら、イスノキにふくらんだイチジクの実のようなものが、あちこちで見つかりました。実?にしては不揃いだし、おまけに穴が空いています。何だろうと思って手に取って見たら、虫こぶでした。イスノキエダナガタマフシ



といいます。イスノフシアブラムシというアブラムシの仲間の虫こぶで、本には裂開孔はきれいな円形になるものは少ないとありましたが、愛知池のこのアブラムシは円くきれいな穴を開けていました。まるで道具を使ったように。

第47回 2009.1.23(土) 晴れ 最高5.9℃ 最低2.2℃ 参加者:14人

・テーマ: **冬鳥を見よう** 場所: 裕福寺グラウンドP～蟹池 北西の風強し

小春日和のような昨日の天候から一転して、今日は冷たい風が吹き小雪も心配される日でした。グラウンドの向かいの白梅は負けじと咲きだしていました。倉庫のかげで風をよけながら、今日見られそうな鳥を図鑑で確かめてから出発。風が強く声が聞きづらかったので、鳥の動きに注意しながら探しました。

<出会った鳥>ハシボソガラス(通過), ヒヨドリ(群), ジョウビタキ雌, キジバト, カワウ(通過), メジロ, エナガ, ホオジロ(声), コゲラ(声), ハクセキレイ, セグロセキレイ, カイツブリ, カワセミ, ツグミ, ムクドリ, カワラヒワ, スズメ(群), ドバト, ケリ, ノスリ (20種類)



第48回 2009.3.28(土) 晴れ 最高12.4℃ 最低3.2℃ 参加者:14人

・テーマ: **春の七草探し** 場所: 境川周辺



名古屋からホームページを見て参加してくれた2家族と一緒に、七草探しに出かけました。

今年も暖冬といわれていましたが、3月中旬は温かい日が多く、ハクモクレンが例年より1週間ほど早く咲き始め、梅の実がふくらみかけていました。



まだ、地面を這うようにしているニホンタンポポの茎で、笛を作りました。ピンク色がきれいなハルジオンはヒメジョーンと同じく北アメリカ原産の帰化植物ですが、すっかり日本の風景の中に溶け込んでしまっています。

第49回 2009. 5. 23(土) くもり 最高 26.8℃ 最低 5.6℃ 参加者: 40人

・テーマ: **前川のヒメボタル** 午後8時30分開始 風弱く8時で20℃ 場所: 前川周辺



暑さの後に雨が降り、また暑くなってヒメボタルの羽化の条件がそろってきたので、今年は良い感じだとおもっていたら、観察会当日は、夏日になり風も弱く、夜になっても20度あり、絶好の日和になりました。

前川の堤防を歩くうちに、手の上に光るホタルをのせ、

実際の大き
さ 7~8 mm



歓声を上げる子どもの声が響いてきました。



<ヒメボタルの特徴> 陸に棲む巻き貝の仲間を食べる小型のホタルで、メスには後ろ羽がなく飛べない。雄雌が強い光を発して呼び合い、交尾し産卵する。風が強い日は雄があまり飛ばないため見られる数が少ない。ゲンジボタルに比べると小さいが別名を金蛍と言われるほど黄色い光は強い。しかし、他のホタルと同様、雄雌の出会いの季節に光害が甚だしいと、出会いに支障を来すと思われる。

第50回 2009. 7. 25(土) くもり 最高 32.1℃ 最低 25.7℃ 参加者: 13人

・テーマ: **境川で魚をつかまえよう** 場所: 境川周辺



梅雨明けはまだ遠く、風が強い日でした。アブラゼミの鳴く中、境川から入りました。昨年より、雨のせいか岸辺の草が少なく、流れも速く感じました。30分ほどで、前川に移動しました。捕まえたものを確認し合い、アメンボの臭いをかいだり、

ザリガニのつかみ方を試したりしました。

<確認した生きもの> メダカ、ギンブナ、タウナギ、スジエビ、不明な幼魚、アメリカザリガニ、ウシガエルのおたまじゃくし、ヌマガエル、ガムシの仲間、カゲロウの仲間、マシジミ、アメンボ、シマアメンボ

日当たりのよい岸边には、キタテハがいくつも舞っていました。その下には、幼虫が食べるカナムグラがたくさんありました。



第51回 2009. 9. 26(土) くもり 最高31℃ 最低22℃ 参加者:41人

・テーマ: **バッタの運動会** 場所: 名大農場



名大の農場の広場をお借りしての「バッタの運動会」は、6回目を迎えました。今年も楽しいひとときを送ることができました。

9時30分が近くなり、親子連れが次々に集まってきました。受付を済ませるのももどかしく、虫網を持ってバッタ探しに夢中になる親子の姿が見られました。虫探しを集合地周辺で30分とり、風上にスタートラインを設けて、さあ、バッタの運動会の始まりです。どのバッタが一番飛ぶでしょうか。飛ばす本人も、見ている大人達も、計測する人も興味津々です。

風を待って、しっかり握った手を空に向けて放したらぼとりと落ちるもの、飛んだと思ったら、空中を旋回して戻るもの、様々でした。

<登場したバッタやキリギリスの仲間(1人2回まで挑戦権あり)>

クルマバッタモドキ8, ウスイロササキリ3, ショウリョウバッタ9, ツチイナゴ3, ヒナバッタ10, マダラバッタ3, (コバネイナゴも出場予定でしたが片方の羽を失っていたのでとばせませんでした)



今年の1位は、クルマバッタモドキのオスで31.1mでした。2位も同じバッタのオスで25mでした。2人にはススキで作ったバッタが贈られました。



最後に、今日捕まった昆虫の特徴や捕まる場所の話をしました。草の高さ、地面の様子など(環境)が違っていると見つかるバッタが変わってくるのが理解していただけだと思います。



第52回 2009. 11. 28 晴れ 最高 18.5℃ 最低 9.9℃ 参加者：22人

・テーマ：ドングリ探し 場所：愛知池



多少風が吹きましたが、穏やかな日になりました。

幼児や低学年の子どもを中心に愛知池の周辺に植えられているドングリの仲間を探しました。

目的地まで、ドングリの仲間を含む木の話をしながらいきましたが、子どもの記憶力やめざとさに驚かされることもありましたが、鉄は熱いうちに打てとは、よく言ったものだと思います。

ボートの栈橋の向こうにある展望台の入り口の大きなドングリになるコナラの木から、上の写真のような実物を見てもらいながら、ドングリ探しを始めました。

つぶつぶ帽子のコナラ、とげとげ帽子のクヌギ、しましま帽子のカシの仲間、食べてもおいしいシイの仲間、それぞれの特徴を記憶して、ドングリ探しをしました。すぐに、あちこちから「見つけた！」の声。楽しくドングリ拾いができたようです。

ドングリ拾いをしながら、いろいろな形のドングリがあることや木の葉の形の違いなどに関心を寄せてくれたことと思います。ドングリ以外の木の実や、寒さであまり動けなくなったカマキリも見つけました。

<話に出たり、実物を見つけたこの実>

コナラ、クヌギ、アラカシ、ツブラジイ、スダジイ、ウバメガシ、ウラジロガシ、シラカシ、クスノキ、マツカサ



第53回 2010. 1. 23 (土) くもり 最高 10℃ 最低 0℃ 参加者: 12人

・テーマ: 冬鳥を見よう 場所: 傍本グラウンドP～蟹池



COP10 に因み、鳥を中心とした食物連鎖の話しや、種によってすむ場所が異なることなどを話し後、浅間神社の東側を通り東郷高校の脇を抜け、蟹池まで行きました。

環境は、林の縁、林の中、丈の高い草地、明るく開けた農地、人家の庭、農業用ため池などです。それぞれに、その環境を好む種類が違います。鳥は、棲み分けをすることで、食べ物を効率よく得られるようにしているようです。観察したり、上空を飛んだり、(声を聞いた鳥)は、全部で22種類でした。順に並べて書くと以下のようです。

モズ、キジバト、ジョウビタキ、ムクドリ、スズメ、ヒヨドリ、(ルリビタキ)、メジロ、(カワセミ)、(シロハラ)、ホオジロ、(アオジ)、コガモ、カイツブリ、オナガガモ、カルガモ、マ



ガモ、ハシビロガモ、カワウ、ハクセキレイ、ハシボソガラス、ツグミ。この中でオナガガモは、平成15年以来久しぶりに会いましたが数は2羽のみです。毎年見られる鳥の種類や数は変化します。

今回、蟹池の南東にある(写真の○の部分)林が伐採されていたのには驚きました。鳥の目になって上空から見下ろしたらさぞ変わって見えたことでしょう。現在法面がむき出しなので、来年に向けて考えたいものだと思います

第54回 2010. 3. 27 (土) くもり 最高 12.2℃ 最低 1.8℃ 参加者: 13人

・テーマ: 春の七草を探そう 場所: 境川周辺



最初に、今咲いている花の押し花を見て、予備知識を話し、テニスコートを周り、前川の橋を渡り、ヒバリの声がよく聞こえる通りの向こうの農地へ行きました。ここで、春の七草の歌にあるうち、なずな、ごぎょう、はこべら、ほとけのぎを確認しました。

七草のほとけのぎは、コオニタビラコです。ごぎょうは、ハハコグサ、はこべらは、ハコベ。現在のほとけのぎは食用には適さないようです。

タンポポが満開でした。セイヨウタンポポとニホンタンポポは葉の形だけでは区別はつきません。花を包む総包にとんがりがなく反り返っている方がセイヨウタンポポで、とげあり・反り返らずがニホンタンポポです。平らな所で、タンポポが咲いているようすを見ていたらあることに気付きました。ニホンタンポポは絨毯のように広がり、しかも花茎が長く、セイヨウタンポポは花茎が短かったのです。何か所か見て回りましたが、同じような傾向が見られました。あぜ道に

生えている見慣れた植物にも、その気になれば何かしら発見があります。



第55回 2010. 5. 22(土) くもり 最高28.5℃ 最低16.8℃ 参加者:50人

・テーマ: **前川**のヒメボタル 午後8時30分～9時30分 場所:前川周辺



3日前に雨が降り、気温も上昇。風もなく、おまけに消防団の操法訓練がお休みだったので暗い中での観察。このような好条件に恵まれたが、ヒメボタルの出足は遅く、1, 2しか見られず少しがっかりしたが、9時頃から、草の間であちらこちらで発光が見られ、手の上にとって観察することができた。そうこうするうちにオスがふわふわと飛ぶ姿が見られるようになった。コースを一周する頃には発光した数が61になった。



ヒメボタルは体が小さく、生い茂る草の間に隠れていると、見る位置が少し変わったただけで見過ごすことがある。帰りがけ、対岸で、数匹のホタルが固まって光を交わす場面に出会うことができた。うまくお相手が見つかったのかな。また、来年、元気にその姿を見せてほしいと願う。



<ヒメボタルの特徴> 陸に棲むオカチョウジガイなどの巻き貝の仲間を食べる小型(オス:体長7mm)のホタルで、メスには後ろ羽がないので飛べない。雄雌が強い光を発して呼び合い、交尾し産卵する。風が強い日は雄があまり飛ばないため見られる数が少ない。ゲンジボタルに比べると小さいが別名を金蛍と言われるほど黄色い光は強い。



第56回 2010. 7. 24(土) 晴れ 最高36.8℃ 最低27.2℃ 参加者:21人

・テーマ: **境川**の生きもの調べ 場所:境川周辺



7月16日に梅雨明けしてから、32度を超える真夏日になり、21日からは35度を超える猛暑日が続いています。梅雨の涼しさになれた体には応えます。

始めに境川、そして前川の生きものを探しました。梅雨の雨の影響で



やや水量が多く、足下に注意しながら探索しました。

＜捕まった生きもの＞

ナマズ(初)、メダカ、オイカワ(初)、マルタニシ、マシジミ、ヌマガエル、トノサマガエル、ヒメガムシ、ザリガニ、ウシガエルのおたまじゃくし、ヒル、ケラ



第57回 2010. 9. 25(土) 快晴(北西の風) 最高 27℃ 最低 16℃ 参加者: 21人

・テーマ **バッタの運動会** 場所: 名大農場



下見をした頃は、当日は雨か曇りかと心配した天気でしたが、気持ちのよい日になりました。名大農場の広場をお借りして、この会を催すのは今年で7回目になります。

始めに、下見で観察したバッタなどを写真や実物で紹介し、今日の観察会で扱うバッタやキリギリスの仲間の色合いと周りの地面の様子を考えました。その後、25分で何種類集められるか競いました。一番たくさんの種類を集めたグループは6種類でした。実物を見ながら昆虫たちの生活とCOP10に関わる話をしました。

＜集まったバッタやキリギリスの仲間＞

クルマバッタモドキ、マダラバッタ、ヒナバッタ、ショウリョウバッタ、ツユムシ、ウスイロササキリ、ホシササキリ



一人2回、バッタを持って、合図とともに上に放り上げ、飛ぶ距離を競いました。はじめは、虫にさわると言っていた子が、2回目は自分の手から飛ばすようになり、場外まで飛んでいった虫の姿を見て、声を上げて驚いたりして、楽しく過ごせたようです。



＜結果＞

KTちゃん STちゃんと RHさんが放した虫が、建物を越え場外まで飛び去り、優勝しました。出場昆虫は、ツユムシ(1)とクルマバッタモドキ(2)でした。



第58回 2010.11.27(土) 快晴 小春日和 最高14 最低4 参加者:24人
・テーマ: **ドングリを見分けよう** 場所: 愛知池



愛知池の周りの雑木林の紅葉もだいぶ進み、月齢20.8の下弦の月が青空にぼっかり浮かんでいました。

紅葉した林とこれから見ていく愛知池南側の林を対比したあと、ドングリの実る常緑の林に行きました。拾い始める前に、見本を見てもらいながら、ぼうし・殻斗(かくと)の違いで4種類に分けられることを話し、種類が違うと思われるドングリを拾って持ってきてもらいました。

集まったドングリをみんなで見直すと、いろいろな特徴が見



えてきました。「しましま」ぼうしでおしりが平らなアラカシ、同じ「しましま」ぼうしでも形や質感がやや異なるウラジロガシ、「つぶつぶ」ぼうしでおしりがすぼまるウバメガシです。

そのあと、ツブラジイとスタジイを探し、他の木と幹や葉の違いを比べたあと、それぞ

れのどんぐりの木の葉っぱを見つけました。

林の外れで、イスノキの実や虫こぶを観察していたHさんが実の殻が「トトロ」にそっくりだと言うことに気づき教えてくださいました。イスノキの葉にはイスノキハコタマフシ(イスノキアブラムシ)が、その北側のイスノキにはイスノキエダナガタマフシ(イスノキアブラムシ)がありました。エダナガタマフシには直径5mmほどのアブラムシの脱出孔があいており、あとで吹いてみるとヒョーという音が出ました。アブラムシが脱出孔をどのように作るか興味があります。最後に、クヌギ(植栽木)と標準より大きなコナラの実を見つけました。



元気な5才の男の子は、たくさん昆虫を見つけ持ってきてくれました。寒さに負けずにがんばっている虫がいたのです。子供の目とその集中力にはかないませんね。

第59回 2011.1.22(土) 曇 最高7.7 最低-1.6 参加者:大人8人 子供5人
・テーマ: **冬鳥を見よう** 場所: 裕福寺グランドP~蟹池

北西風が強い1日でした。浅間神社の林に遮られた東の道並木や草地は、ジョウビタキやアオジ、ホオジロがよく見られるところです。今年は、アオジが少ないようです。東郷高校の北西にある法面には

ホオジロやカシラダカ、モズなどを期待しましたが、ここも様子が変わりいつもほどは見られませんでした。蟹池は、池の南側が造成されて開けてしまい環境がすっかり変わりました。やはり水鳥の種類や数は減ったままです。

<観察できた鳥：32種類>

林や野の鳥：セグロセキレイ、ハクセキレイ、ツグミ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、ジョウビタキ、コゲラ、ヒヨドリ、メジロ、ムクドリ、シジュウカラ、ケリ、キジ、スズメ、エナガ、ホオジロ、モズ、ヤマガラ、カシラダカ、キジバト、シロハラ、ビンズイ、チョウゲンボウ、カケス

水辺の鳥：カルガモ、アオサギ、カワウ、コガモ、ハシビロガモ、マガモ、カイツブリ、カワセミ



第60回 2011.3.26(土) 晴れ 最高9.6 最低0.4 参加者：大人8人 子供4人

・テーマ：**春の七草 花探し** 場所：境川周辺



春になっても寒い日が多く、今日も冷たい風が吹きすさぶ1日でした。最大風速は9mほどあったようです。

テニスコートの駐車場前の土手で花の咲いている草を探し、見つけた花を次々に画板にセロテープで留めていきました。小さい子たちも一生懸命さがしました。

春の七草は、ナズナ、ゴギョウ(ハハコグサ)、ハコベラ(ハコベ) ホトケノザ(コオニタビラコ)の4種類見つかりました。

植物：コオニタビラコ、ナズナ、コハコベ、ミドリハコベ、ハハコグサ、オランダミミナグサ、スズメノヤリ、ヒメオドリコソウ、ホトケノザ、スイバ、カラスノエンドウ、ノジスミレ、アリアケスミレ、セイヨウタンポポ、ニホンタンポポ、タネツケバナ、オオイヌノフグリ、アメリカフウロ、ツクシ、スギナ、タネツケバナ、キュウリグサ、シロツメクサ、スズメノエンドウ、スズメノカタビラ





せりなずな ごぎょうはこべら ほとけのざ
すずなすずしろ これぞななくさ (春の七草)

秋になったら、秋の七草を探してみましよう。
はぎききょう くずおみなえし ふじばかま
おばななでしこ これぞななくさ (秋の七草)



東郷町グリーンベルトを考える会 10年のあゆみ

編集・発行：東郷町グリーンベルトを考える会

発行日：2011年3月

お問い合わせ先：東郷町役場 都市計画課 公園緑地係

電話：0561-38-3111（内線：2234、2235） ファックス：0561-38-0001

E-mail tgo-tokai@town.aichi-togo.lg.jp

<http://www.town.aichi-togo.lg.jp/tokei/koen/greenbelt/greenbelt.html>

